

# 感 所 頭 年

樽本樹邨名誉会長代行揮毫

中日新聞 平成30年1月1日号より転載

## 新年のご挨拶

会員の皆様、明けましておめでとうございます。健やかな新しい年をお迎えのことと存じます。この一年が会員の皆様にとって平和で良い年であることを願っております。

さて、わたくしは、本年一月二日で満八十七歳の春を迎えることとなりました。今は政治の世界とは一線を画し、穏やかではあるものの元気で日常を送っております。

昨年は、国内外を問わず、まさに激動の一年であったかと思えます。特に日本の安全保障に関わる問題は難しい局面にあります。関係各国が英知をもって解決に導いて欲しいものです。

国内では、懸案でありました天皇陛下の生前ご退位のこ

とにつきまして、参つたよう筋道がととのつて参つたようです。いずれにせよ陛下のお気持ちを十分に考えていかななくてはならないことではないでしょうか。他方、若者のめざましい活躍も話題となりました。地元中学生棋士・藤井四段の連勝記録更新は記憶に新しいことです。彼の活躍によって将棋の世界が、従来にもまして脚光を浴び、裾野が広がったことは喜ばしいことです。

また、十一月には本会の協力により『愛知県・江蘇省友好書道展』が中国南京市において盛大に開催され、日中友好に貢献したことは喜びに堪えません。本年は、愛知県において開催の予定となっております。盛大に開催される事を願っております。加えて、樽本樹邨先生の東海テレビ文化賞、並びに、安藤滴水先生の教育文化功労者・愛知県知事表彰は本会にとっても喜ばしいことでありました。

関根玉振理事長はじめ、新体制の企画委員の皆さんが一丸となって、日本の伝統文化である書道の発展に寄与されることを願ってやみません。

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、平成三十年・戊戌の歳を健やかに迎えに生まれ、新たな思いを胸に一年の志を立てられたことと思います。

この新しい年の寿ぎに、嬉しいニュースがございます。本会名誉会長代行の樽本樹邨先生が、第四十九回東海テレビ文化賞を、名誉副会長の安藤滴水先生が、第六十九回愛知県表彰・教育文化功労者として、それぞれご受賞・表彰を受けられました。両先生には、今後ともご健勝で、本会にも変わらぬご指導をお願い申し上げます。

さて、本会の今年一年の

事業予定に対し、事務局に於いて着々と計画が立てられ、実行すべく準備がなされております。

まずは、最も基本となる事業であります中日書道展は、本年で第六十八回を迎えますが、かねてよりご案内のとおり、大村愛知県知事のお力添えにより実現いたしました。日中国交正常化四十五周年並びに、日中平和友好条約締結四十周年を記念する、愛知県・江蘇省文化交流事業「友好書道展」を、中日書道展と併催する形で実施したいと考えております。

三千年を超える歴史を有し、日中両国に共通する芸術の華である『書』を通じての交流により、人と人、心と心が通い合う友好関係をより深く築いていきたいと願っております。

今年度の中日書道展では、愛知県美術館が耐震補強工事により使用が出来ず、苦心の末の会場確保及び日程となりまし



団体署名実施協力中



名誉会長  
海部俊樹



理事長  
関根玉振

# 中日会報

公益社団法人 中日書道会  
編集事務局 名古屋市  
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19  
山ビル8階 C号室  
電話 (583) 19000番  
FAX (583) 19100番  
http://www.cn-sho.or.jp  
info@cn-sho.or.jp  
印刷 株式会社 荒川印刷

## 目次

- 1 海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」  
樽本樹邨名誉会長代行揮毫  
関根玉振理事長「新年のご挨拶」  
鬼頭翔雲名誉副会長「年頭所感」  
名誉会長代行 樽本樹邨先生  
第六十二回現代書道二十人展「ご出品」  
第二十六回書道展  
名誉会長代行 樽本樹邨先生  
第四十九回東海テレビ文化賞ご受賞  
名誉副会長 安藤滴水先生  
第六十九回愛知県教育文化功労者表彰

- 4 国外史跡探訪研修旅行  
第二十九回書道教育研修会開催  
第二十一回 書の魅力 公開講座  
会員交流ポウリン大会  
改組 新第四回日展入賞・入選者  
第六十八回中日書道展出品規程(抜粋)  
日程表  
同  
二〇一七チャリティ愛の募金  
募金参加者名簿

### 鬼頭翔雲名誉副会長 年頭所感



四歳の若さで二十九連勝という偉業を成し遂げ大きな話題になりました。若人の潑刺な活動は心を清々しくさせてくれます。

ど、若い人たちの意欲を感じ嬉しく思っております。

昨年十一月には中国南京市において「愛知県・江蘇省友好書道展」が開かれ、大村愛知県知事共々多くの本会員も訪れました。この書道展は、本年六月、当名古屋市において日

### 書道文化発展のために

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 鬼頭翔雲

本年六月、当名古屋市において日

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本会は本年創立八十五年目、現在会員数四六〇〇余名、公益社団法人として各種事業推進に努めております。

本校生を対象とした「書きぞめ展」が事業の一つで、出品は毎年一万五千点を超えるのに寄与してまいる所存です。

### 本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

### 第六十二回 現代書道二十人展 ご出品

会 期 平成三十年二月二十四日(土)～三月四日(日)

会 場 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

### 第一回評議員会

講演会

二月十八日(日) 十六時三十分～十七時三十分

講師 春日井道風記念館館長 落合 哲氏

演題 「小野道風は、こんな人だった」

平成二十九年

平成三十年二月十八日(日) 十五時三十分

名古屋観光ホテル

中日新聞 平成30年 1月 1日号より転載

### 第二十六回 壽書展

### 平成二十九年 度壽書展を終えて

第二事業部長 馬場 紀行

満七十歳以上を対象として二十六回目の開催となった壽書展は本会会員百六十一人、会員外十七人の合計一七八人の出品があり、名誉会長海部俊樹先生の軸作品「壽」をはじめ、プロ作家の熟達練磨された作品から書の愛好家の作品まで多種多様な幅の広い作品の数々が陳列され、長年にわたり書を生活の糧とされてきた方々のお気持ちが伝わり、見応えと優しさのある展覧会であった。しかし一方で、伏見駅から徒歩四分という会場のアクセスの不便さは考え難い中で、連日大勢の来場者とは言えない現状(入場者数七百十四人)は何とも勿体無い感が否めず、今後ただ開催するだけではなく多くの方々に鑑賞して頂き、公益性の有る催事として行っていく事が課題であると痛感した。

#### 次回開催予定

第二十七回壽書展

平成三十年十一月二十七日(火)～十二月二日(日)

電気文化会館五階東・西ギャラリー



会場風景



展覧会会場案内



名誉会長代行 樽 本 樹 邨 先生

## 第四十九回東海テレビ文化賞

ご受賞

受賞理由

《中部書壇の向上、後身の育成に尽力》

第四十回日展で文部科学大臣賞、平成二十二年には日本芸術院賞を受賞、「現代書道二十人展」のメンバーとして活躍、日展常務理事、中日書道会名誉会長代行の重責を歴任。

(東海テレビ文化顕彰者ホームページより引用)



名誉副会長 安藤 滴水 先生

## 第六十九回愛知県教育文化

功労者表彰

受賞理由

長年にわたり書家として精進・研鑽を重ね幾多の秀作を発表するとともに、数多くの後進の指導育成にも尽力し、書道文化の振興に大いに貢献した。  
日展会友・毎日書道展審査会員・中日書道会名誉副会長  
の要職を歴任。

(愛知県表彰・教育文化功労者、功績内容より引用)

# 国外史跡探訪研修旅行 友好書道展

11月21日(火)～11月23日(木・祝)

## 日中交流書展によせて

名誉副会長 安藤 滴水

みなさん、こんにちは。  
名古屋からやってまいりました、中部日本書道会の会員です。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、僭越ではございますが、ひと言ご挨拶申し上げます。

この度の交流書展は昨年九月に大村愛知県知事が江蘇省に訪問された際、石泰峰省長先生からご提案され、実現いたしました。そして多くの人々にご尽力いただいたことに深く感謝の意を表します。

中国は書の故郷として悠久三千年の歴史を持ち、日本にも伝来、日本人には憧れの地であり、雄大な自然に育まれた書の文化は、どのような時代にあっても脈々と継承されて両国が愛好する芸術となりました。

私どもが江蘇省を訪問しましたのは、二〇〇〇年に友好県省二十周年記念の代表作家展が開催された時以来でありますから、今回一同は胸躍らせてやってまいりました。

二〇〇五年に開催されました日本での愛知万博では、本会が主になって「世界のSho・日本の書」と銘打って、中国、韓国、日本の三国で書展を開催いたしました。中国からは啓功先生はじめ十六名

の先生方も訪問していただき、書の素晴らしさに華を添えて下さいました。

それを機に書に携わっていない一般の人々にも、書を持つ力、感動、魅力等一層心に深く浸透することになりました。現在は、ITの全盛時代といわれておりますが、やはり手書き文字には、心を豊かに充ててくれる大きな力があります。

古くから「書は人なり」とも言われ、高い精神性を養う目標として、学校教育でも、手書きの書が重要視されております。両国共通の書道芸術が将来を担う青少年に立派に継承されていくことも、未来永劫歴史の発展と信じております。

今日の交流書展を通じ、両国の友好関係と文化交流が一層促進されますよう、祈念申し上げます。本日はこのような立派な席をもうけて下さり誠にありがとうございます。

来年は日本国、名古屋で開催することになっております。陳震寧副省長先生はじめ、関係の先生方には、ぜひとも名古屋にお越し下さり、本会会員と友好を深めて下さることを、お約束しまして、挨拶とさせていただきます。  
ありがとうございます。

式典での挨拶より



安藤滴水名誉副会長 挨拶



陳震寧江蘇省副省長 挨拶



大村秀章愛知県知事 挨拶

# 平成29年度 公益社団法人 中部日本書道会 愛知県・江蘇省



友好書道展会場風景



友好書道展開幕式典



伊藤昌石常任顧問



鬼頭翔雲名誉副会長



樽本樹邨名誉会長代行

席上揮毫会

参加者名簿

会 員	企 画 委 員	参 与 者	参 事	顧 問	監 事	理 事 局 長	副 理 事 長	理 事 長	常 任 顧 問	名 譽 副 會 長	代 名 譽 會 長 行 長
伊 藤 昌 石	飯 山 廣 上 小	磯 井 磯 津 上	伊 藤 井 内 瀬 浦 松 切 林 藤 侯 藤 山 野 池 下 野 藤 根 藤 藤 頭 藤 本	横 山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	岡 伊 関 後 伊 鬼 安	伊 関 後 伊 鬼 安	後 伊 鬼 安	伊 鬼 安	樽 本 樹 邨
郷 華 山 舟 山 聽 燕 東 月 草 嶺 軒 鶴 彦 苑 桂 州 景 太 香 舟 洲 雲 岑 風 亭 游 振 鶯 石 雲 水	山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	磯 井 磯 津 上	伊 藤 井 内 瀬 浦 松 切 林 藤 侯 藤 山 野 池 下 野 藤 根 藤 藤 頭 藤 本	横 山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	岡 伊 関 後 伊 鬼 安	伊 関 後 伊 鬼 安	後 伊 鬼 安	伊 鬼 安	樽 本 樹 邨
会 員 外	梶 吉 谷 山 三 野	長 中 鶴 鶴 田 関 志 長 長 岡 岩 矢 毛 松 原 波 高 庄 近 黒 國 神 鎌 加 岡 岩 伊	鶴 鶴 田 関 志 長 長 岡 岩 矢 毛 松 原 波 高 庄 近 黒 國 神 鎌 加 岡 岩 伊	横 山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	岡 伊 関 後 伊 鬼 安	伊 関 後 伊 鬼 安	後 伊 鬼 安	伊 鬼 安	樽 本 樹 邨
	千 熙 等	千 勝 凌 佳 瑞 蒼 翠 凌 玉 玲 裕 正 愛 翠 潮 惠 三 圭 香 嚴 華 梅 芝 英 緑 彩 秀 麗 緑 艸 汀 亭	千 勝 凌 佳 瑞 蒼 翠 凌 玉 玲 裕 正 愛 翠 潮 惠 三 圭 香 嚴 華 梅 芝 英 緑 彩 秀 麗 緑 艸 汀 亭	横 山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	山 村 松 平 波 中 後 木 加 片 天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	天 大 松 岡 伊 関 後 伊 鬼 安	岡 伊 関 後 伊 鬼 安	伊 関 後 伊 鬼 安	後 伊 鬼 安	伊 鬼 安	樽 本 樹 邨

# 書道展の主な出展作品



切磋琢磨

鬼頭 翔雲

公益社団法人中部日本書道会 名誉副会長



三顧之禮

安藤 滴水

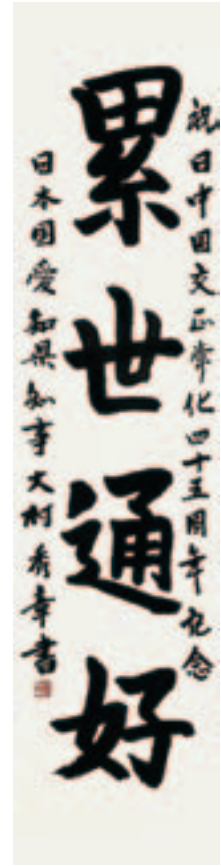
公益社団法人中部日本書道会 名誉副会長



凜若喬嶽峙

樽本 樹邨

公益社団法人中部日本書道会 名誉会長代行



累世通好

愛知県知事 大村 秀章

公益社団法人中部日本書道会 名誉顧問



問身自在心

松下 英風

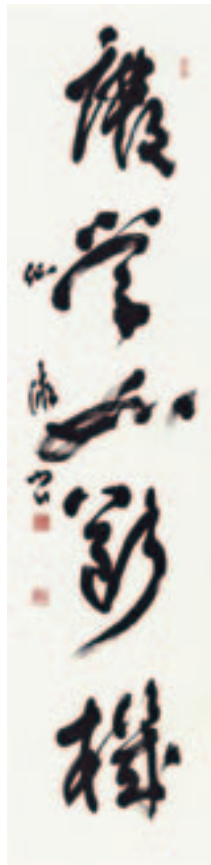
公益社団法人中部日本書道会 副理事長



渭城朝雨浥輕塵 客舍青青柳色新 勸君更盡一杯酒 西出陽關無故人

岡野 楠亭

公益社団法人中部日本書道会 副理事長



廢學如斷機

伊藤 仙游

公益社団法人中部日本書道会 副理事長

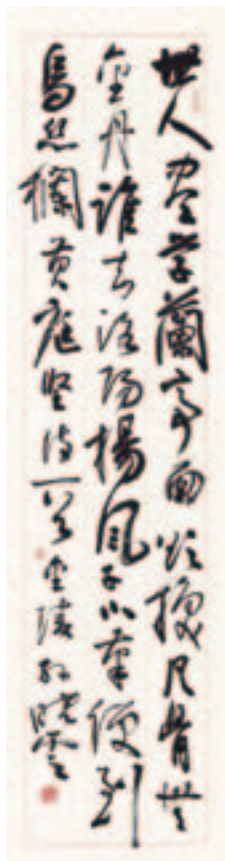


碧鮮淨孤渚

関根 玉振

公益社団法人中部日本書道会 理事長

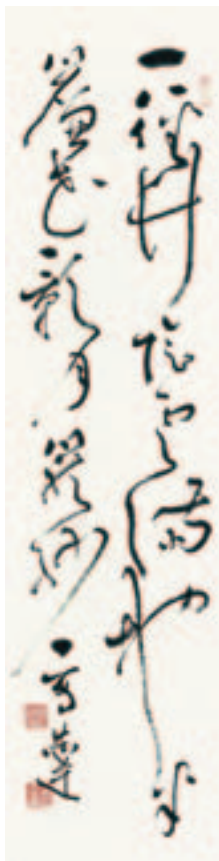
# 愛知県・江蘇省友好



世人尽学兰亭面，  
欲换凡骨无金丹。  
谁知洛阳杨风子，  
下笔便到乌丝栏。

孙晓云

江蘇省書法家協會副主席



一径竹阴云满地，  
半帘花影月笼纱。

言恭达

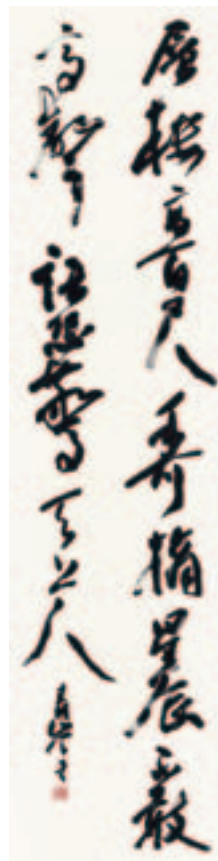
中国書法家協會顧問



正氣堂堂

尉天池

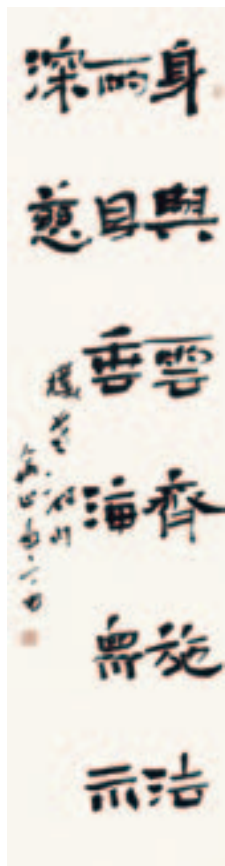
江蘇省書法家協會名譽主席



層樓高百尺，  
手可摘星辰。  
不敢高聲語，  
恐驚天上人。

大池 青岑

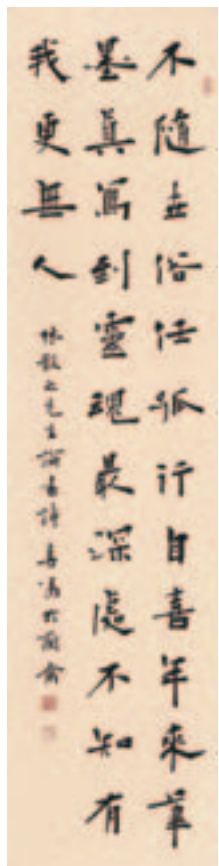
公益社団法人中部日本書道會 事務局長



身与云齐施法雨，  
目垂海众示深慈。

王伟林

江蘇省書法家協會副主席



不隨世俗任孤行，  
自喜年來筆墨真。  
寫到靈魂最深处，  
不知有我更無人。

李 啸

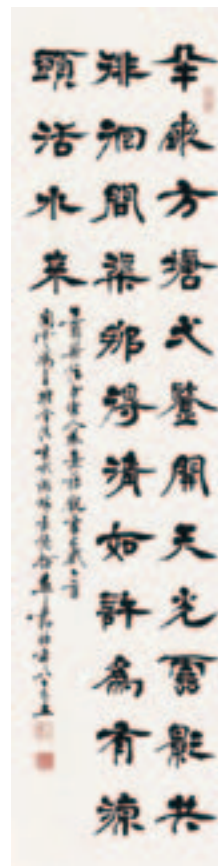
江蘇省書法家協會副主席



飛流直下三千尺，  
疑是銀河落九天。

徐利明

江蘇省書法家協會副主席



半方塘一鑿開，  
天光雲影共徘徊。  
問渠哪得清如許，  
為有源頭活水來。

张 杰

江蘇省書法家協會副主席

# 国外史跡探訪研修旅行を終えて

第二企画部兼IT部長 上小倉 積山

本年度企画された国外史跡探訪旅行は、南京の江蘇省美術館で十一月二十二日から開催される「愛知県・江蘇省友好書道展」の開会式に出席し日中両国の代表作家の作品を鑑賞することを中心に計画された。開会式には本会関係係六十四名が参加する事となり、十一月二十一日に中部国際空港を出发した。本展覧会は、昨年九月に愛知県知事と江蘇省省長の間で共通文化である書道での交流が計画され実現したものである。本会からは樽本樹邨名誉会長代行、安藤滴水名誉副会長、鬼頭翔雲名誉副会長をはじめとする四十名の会員が出品していた。

上海浦東空港に到着した我々は上海国際機場賓館にて軽食後、二台の専用バスにて南京へと向かう。途中、二号車にトラブルが発生するハプニングがあったが、無事、宿泊ホテルの南京中心大酒店に到着することが出来た。

翌、十一月二十二日、午前十時より展覧会場である江蘇省美術館にて開会式が挙行され、三百人以上の出席者の中、両国代表が紹介され、陳震寧江蘇省副知事、大村秀章愛知県知事が開会の言葉を述べた。これに続いて書道会を代表して中国書法家協会主席孫曉雲先生が挨拶、日本側からは安藤滴水名誉副会長が「IT全盛時代の現在でも、手書き文字には人の心を豊かに満たす力がある。書道芸術が日中の青少年に継承されると信じている」と述べた。テープカットは樽本樹邨名誉会長代行ら両国の代表者によって行われ開会の運びとなった。

展覧会場にて両国代表作家の作品を鑑賞の後、専用バスにて「愛知県・江蘇省交流昼食会」会場の金陵飯店へ移動した。始めに江蘇省文化庁総長の挨拶があり、続いて中国・日本両国の代表による席上揮毫となった。本会からは、樽本樹邨先生・鬼頭翔雲先生・伊藤昌石先生が揮毫された。交流会は大村知事の乾杯挨拶で会食となった。会食終了後、専用バスにて揚州へ向かう。揚州では、揚州八怪記念館にて鄭燮・金農らの資料を鑑賞し、再び宿泊先である南京中心大酒店へ帰った。

最終日、十一月二十三日は南京博物院へ、特別展観として徐渭・陳淳の展覧会が開催されていた。明を代表する徐渭・陳淳の作品が数多く陳列されており、中には王鐸や呉昌碩の跋文が入ったものもあるなど、大変に見ごたえのある特別展観であった。南京南駅から高速鉄道にて上海へ移動。浦東空港近くのホテルにて昼食の後、帰国となった。中国東方航空にての帰国組は、上海浦東空港の都合で約二時間遅れの帰国となった。

様々なハプニングもあったが、参加者全員が無事帰国することが出来た。また、このような特別な式典に参加することが出来、交流を深めることが出来たことは大きな成果であったと考える。

「愛知県・江蘇省友好書道展」は、平成三十年六月に中日書道展と同じ会場にて再び開催される。



参加者集合写真



# 第29回 書道教育研修会

日時 平成29年10月9日 (月・祝)

場所 名古屋国際センター

## 第二十九回書道教育研修会を

### 開催して

教育部長 廣澤凌舟

十月九日(祝・月)名古屋国際センター五階において第二十九回書道教育研修会を開催いたしました(参加者七十九名)。

講座に先立ち関根玉振理事長による書道講話が行われました。尊円法親王が著した書の故実書である「入木抄」を引用して先生が実践してこられた「諦めずに続けることの大切さ」「書の勉強法」等をお話いただきました。

漢字の荒木友梅先生は「草書を書く」と題して「書体の変遷」「草書の特長」をお話いただいた後、断筆(十七帖)節筆(書譜)の筆遣いをボードを使い具体的にご説明いただきました。実技では北宗の三大家の作品を臨書。真剣かつ楽しそうに紙に向かう受講生の顔が印象的でした。

かなの清水春蘭先生は「美しいかなく古筆と共に」と題して平安中期に書かれた「源氏物語」、美文字のルーツ

である「高野切第三種」「関戸本古今集」「小島切」「針切」等それぞれの特長を説明いただいた後実技へ。かなの繊細さ、優雅さを感じられる講座でした。

近代詩文書の佐野翠峰先生は「詩文書を楽しむ」と題し「著作権について」「作品制作の手順」等、実践に役立つお話を丁寧にお話いただきました。実技では机間巡回し精力にご指導いただきました。

篆刻の鈴木立齋先生は「一字印を刻してみよう」と題して、「篆刻の三法(字法・章法・刀法)」を説明いただいた後実技へ。先生にお持ちいただいた(字入れ済)石に刀を入れ添削していただくという流れで進行。受講生からは「先生に補刀していただき全く違う作品になりました。」とのお声をいただきました。

四講座とも大変熱心なご指導で、受講生からは「巧みな技を直接拝見出来感動しました。」「是非来年も参加したい。」等、嬉しいお言葉をいただきました。

最後になりましたが、ご多用中にも拘らず講師をお務めいただきました先生方に厚く御礼申し上げます。またお手伝いいただきました教育部の方々、お申し込みいただきました皆様にも重ねて御礼申し上げます。



書道講話 関根玉振理事長



漢字講座 荒木友梅先生



かな講座 清水春蘭先生



近代詩文書講座 佐野翠峰先生



篆刻講座 鈴木立齋先生

# 第21回 書の魅力 公開講座

日時 平成29年11月26日(日) 場所 電気文化会館 5階イベントホール

## 「平成二十九年度公開講座」を終えて

研究部長 武内峰敏

十一月二十六日(日)、名古屋電気文化会館イベントホールにおいて「第二十一回 書の魅力 公開講座」が開催され、九十八名の方にご参加いただきました。

関根玉振理事長の開会のご挨拶の後、第一講座「『かな』あれこれ」と題して理事・村瀬俊彦先生のお話が始まりました。

村瀬先生は「かな」とその料紙の美しさに魅せられて書の世界に入られたとのこと。今回の講座ではご自身が長年にわたって収集された料紙の数々を直接お見せくださり、平安王朝の書の雅に触れることができました。



かな資料を拝見する参加者

第二講座は「書の五目話」と題して理事・工藤俊朴先生にお話いただきました。工藤先生は四十二年間の教育者としての経験から、「書」「書道」「書写」について、また「書の歴史」について多くの資料を示され分りやすくご説明くださいました。終始熱心にご講演いただきました村瀬俊彦先生、工藤俊朴先生に厚く御礼申し上げます。

文責 下村汀柳



第1講座 村瀬俊彦先生



第2講座 工藤俊朴先生

## 会員交流 ボウリング大会を終えて

厚生部長 古川昇史

去る十二月十日(日)午後一時三十分、星ヶ丘ボウルで平成二十九年度中部日本書道会会員交流ボウリング大会が開催されました。始めに関根玉振理事長のご挨拶をいただき、つづいて、安藤滴水名誉副会長、鬼頭翔雲名誉副会長お二人の、始球式が行われゲーム開始されました。九十名(男性三十四名・女性五十六名)の参加者で腕を競い合いました。ゲーム終了後、パーティールームにて懇親会と成績発表。男性一位高木玄齊氏、女性一位米津美華氏に、樽本樹邨名誉会長代行よりトロフィーと記念品が贈られました。樽本名誉会長代行より乾杯のご発声で懇親会が始まり、和やかに進み、ラッキーマンバー抽選会が発表され盛り上がりしました。



この催しにご協力頂きました皆様、賞品を提供頂きました協賛会員の皆様、本当に有難うございました。心よりお礼申し上げます。

改組新第四回日展入賞・入選者

日展特選を受賞して

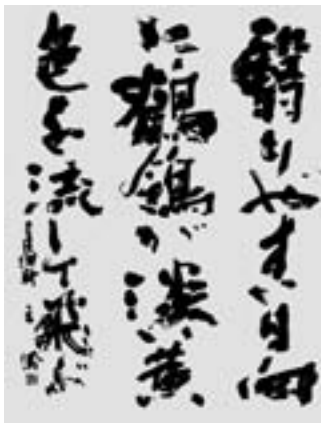


川合玄鳳

特選受賞の報せは正に青天の霹靂。体が震えました。これも偏に審査に携わられました諸先生はじめ中日書道会の諸先生方・仲間の日頃からの御指導と、励ましの御言葉の御蔭で書が続けて来られたからと感謝しています。

大学入学を機に今は亡き金子卓義先生に師事し、古典臨書を通じての作品造りを一から教えて頂きました。不器用な上につき筆先だけで書いてしまう私です。「上手く書くのか下手に書くのかどちらかにしろ！腹で書け!!」と今でも空の上から師の声が聞こえてきます。今回の作品も、その声に心えるように書き進めていく中で偶然に出来た一作です。

特選 三好達治詩



今後も賞の名に恥じぬよう日々精進していく覚悟です。更なる御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

名に恥じぬよう日々精進していく覚悟です。更なる御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日展特選を受賞して

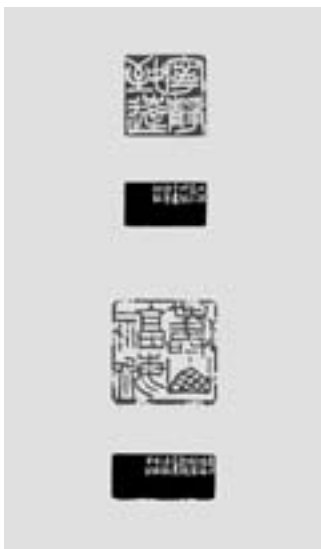


鈴木立齋

この度は、改組新第四回日展におきまして、再度の特選をお与え下さりまして、大変恐縮いたしております。これも偏に、審査にあたられました諸先生方の御厚情と、諸先輩方の御高配の賜と深く感謝いたしております。伝統を重んじた作品創りをと心がけておりますが、白文印、朱文印ともその延長線上にあるかどうか、悩ましいところでした。

呉昌碩系の作風に心惹かれ、本作の根幹ともなりまして、さまざま方向性を模索すべく心新たにしております。わかりやすい語句を用い、款拓、落款を付し全体をまとめました。何卒、尚一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

特選 諸葛孔明語他



〔特選〕

川合玄鳳

〔入選〕

愛知県

家田馨子

朝岡子皓

佐藤慶雲

加藤紫雲

鈴木香鵬

馬場紀行

磯貝弘子

小島瑞柳

柘野英峰

中野玉英

成田尚子

水野佑華

若杉美香

齋藤禹月

田中幸江

村瀬俊彦

香月恵里

神谷采邑

八木敬子

山口律舟

大池青岑

鶴飼清波

田中石雲

片山清洲

森冬華

青木美洲

柿本香苑

近藤青洸

足立麗華

今田昌宏

松久明博

吉澤有岐子

堀清溪

山中桂山

今井桃丘

林先江

今田紅溪

鈴木史鳳

酒向虹風

加藤玉華

丹羽智保

三重県

荒木敬子

荒木泉蓉

伊藤玉冰

岡野敬子

高橋華堂

藤井晴鳳

山本雅月

工藤俊朴

大嶋由美子

久徳蓬香

松田雅風

山中みね子

永平巳旺子

静岡県

小野蹊泉

岐阜県

伊藤小游

田中尚秀

戸崎翠虹

遠藤真人

石黒直子

加藤秀慧

〔○印は初入選〕 ※掲載のお名前は日展ホームページ発表での名簿順となります

# 第六十八回 中日書道展 出品規程 (抜粋)

## 一、会場・会期

▼電気文化会館 東・西ギャラリー

平成三十年六月 五日(火)～六月 十日(日)

▼電気文化会館 東ギャラリー・イベントホール

平成三十年六月 十九日(火)～六月二十四日(日)

▼名古屋市民ギャラリー栄

平成三十年六月 十九日(火)～六月二十四日(日)

▼名古屋市博物館

依嘱・無鑑査作品——平成三十年六月 二十日(水)～六月二十四日(日)

一科作品——平成三十年六月二十七日(水)・六月二十八日(木)

二科作品——平成三十年六月 三十日(土)・七月 一日(日)

※電気文化会館 西ギャラリー

平成三十年六月十九日(火)～六月二十四日(日)は  
愛知県・江蘇省友好書道展の展示

## 一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文  
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

## 一、出品資格

十五歳以上(平成十五年四月一日生まれ以前)の者とする。(但し十五歳から二十一歳までの者(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)は証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を提出する。)

## 一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

## 一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

## 一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

## 一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

## 一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。  
(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

## 一、審査日程

二科作品 平成三十年五月 十九日(土) 午前九時十分～  
一科作品 平成三十年五月 二十日(日) 午前九時十分～  
特別賞選考 平成三十年五月二十一日(月) 午前九時十分～

## 一、審査員

特別賞選考委員は、依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。  
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。  
二科審査員は、二科作品の審査にあたる

## 一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。  
二科作品——二科賞(二点)・奨励賞(一点)・佳作(〇・五点)  
一科作品——推薦(二点)・特選(二点)・準特選(一点)・秀逸(〇・五点)

・無鑑査作品——中日賞・桜花賞  
・依嘱作品——海部俊樹賞・大賞・準大賞

## 一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。

一科 昇格——二科において総点三点に達した者

・無鑑査昇格——一科において総点五点に達した者

・依嘱 昇格——無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者

・二科審査員昇格——依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

## 一、授賞式

平成三十年六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より(予定)

## 一、祝賀会

平成三十年六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より  
〔参加は二十歳以上に限る。〕

## 一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

## 一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。  
締切りは四月十三日(金)までとさせていただきます。

中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

## 一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。  
紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。

搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を出品票に添付して下さい。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十八回中日書道展作品展示会場

電気文化会館 東ギヤラリー	イベントホール	六月十九日(火)～六月二十四日(日)
審査顧問 特別出品 一科審査会員	一～五部 全作品	一部～五部
電気文化会館 東・西ギヤラリー	一部 作品	六月 五日(火)～六月 十日(日)
二科審査会員	一部	
名古屋市民ギヤラリー	二部～五部 作品	六月十九日(火)～六月二十四日(日)
二科審査会員	二部～五部	
名古屋 市 博物館	一～五部 全作品	六月 二十日(水)～六月二十四日(日)
依 嘱 ・ 無 鑑 査	一～五部 全作品	六月二十七日(水)～六月二十八日(木)
一 科	一～五部 全作品	六月 三十日(土)～七月 一日(日)
二 科	一～五部 全作品	

\*期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

※愛知県・江蘇省友好書道展は電気文化会館西ギヤラリーにおいて六月十九日(火)～二十四日(日)まで開催されます

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

展覧会役員作品

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額縦横自由	一四、〇〇〇円	/
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 〃	一四、〇〇〇円	
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額縦横自由	一四、〇〇〇円	一、二、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 〃	一四、〇〇〇円	
一科審査会員 二科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額縦横自由	一四、〇〇〇円	理監一四、〇〇〇円 評参一二、〇〇〇円 顧問は除く
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 〃	一四、〇〇〇円	
依 嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額縦横自由	一四、〇〇〇円	八、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 〃	一四、〇〇〇円	
無 鑑 査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 枠張り(縦横自由)	一四、〇〇〇円	八、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 〃	一四、〇〇〇円	

・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。

・依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)

・今回は会場の都合により一科審以上・二科審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・卷子は、受け付けません。

・篆刻は、二印以内で印影のみとし亚克力入り額装とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。

・刻字は一m平方以内とする。

・無鑑査の作品は亚克力・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)

・依嘱以上の作品は亚克力入りとする。(第一部～第五部)

一科出品について

一、作品寸法

一科作品 (二科会員に限る)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
C	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺) 枠(縦横自由)	九、〇〇〇円	八、〇〇〇円
D	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺) 〃		
E	一・八二m(六 尺)×〇・六二m(二 尺) 〃		
F	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺) 〃		
G	一・四二m(四 尺)×〇・六二m(二 尺) 〃		
H	一・二二m(四 尺)×一・二二m(四 尺) 〃		
I	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五 尺) 〃(縦横自由)		
J	〇・九一m(三 尺)×一・二二m(四 尺) 〃		
K	二・二二m(七 尺)×〇・七〇m(二・三尺) 〃		
L	帖・卷子(寸法は欄外記載のとおり)		

・十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない 十八歳以上は要年会費)

・本年度もG(二・四二m(八尺)×〇・六二m(二尺))は縦横自由とする。

・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。

・作品は、創作又は臨書とする。

・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)

・帖は見開き横〇・七m以内。

・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。

・篆刻は、二印以内で印影のみとし亚克力入り額装とする。(但し、審査終了後となります)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。

・刻字は、一m平方以内とする。

・亚克力・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

・重量は四キログラムを超えないこと。

・十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない。)

・作品寸法は右記の通りとする。

・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。

・作品は、創作又は臨書とする。

・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)

・帖は見開き横〇・七m以内。

・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横二m。

・篆刻は、二印以内で印影のみとし亚克力入り額装とする。(但し、審査終了後となります)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。

・刻字は、一m平方以内とする。

・亚克力・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

・重量は四キログラムを超えないこと。

・十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない。)

・作品寸法は右記の通りとする。

・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。

・作品は、創作又は臨書とする。

・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)

・帖は見開き横〇・七m以内。

・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横二m。

・篆刻は、二印以内で印影のみとし亚克力入り額装とする。(但し、審査終了後となります)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。

・刻字は、一m平方以内とする。

・亚克力・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十八回 中日書道展出品について(取扱い店の皆様へ)

●書類搬入

・所定の出品票を四月十八日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。(二科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)

・新規出品の十五歳から二十二歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託してください。依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品(五月十八日(金)午前九時半〜午前十一時 愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。)

●展覧会の搬入・搬出について

電気文化会館東西ギャラリー 搬入・陳列 六月 四日(月)午後一時〜午後五時 搬出 六月 十日(日)午後三時〜午後五時

電気文化会館東ギャラリー・イベントホール 搬入・陳列 六月 十八日(月)午前九時半〜午後五時 搬出 六月 二十四日(日)午後三時〜午後五時

名古屋市民ギャラリー栄 搬入・陳列 六月 十八日(月)午後一時〜午後五時 搬出 六月 二十四日(日)午後四時半〜午後六時

名古屋博物館ギャラリー 依嘱・無鑑査作品 搬入・陳列 六月 十九日(火)午後一時〜午後五時 依嘱・無鑑査作品 搬出・陳列 六月 二十六日(火)午前九時半〜正午

一科 作品 陳列 六月 二十六日(火)午後二時〜午後五時 一科 搬出 二科 搬入(掛替) 六月 二十九日(金)午前九時半〜正午

二科 作品 陳列 六月 二十九日(金)午後二時〜午後五時 二科 作品 搬出 七月 一日(日)午後三時〜午後五時

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。

・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依嘱はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

・今回は会場の都合により一科審以上・二科審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・巻子は、受け付けません。

〔作品取扱店〕

- 浅井 梧竹堂 〒四五一〇八三三 名古屋市西区あし原町六八一 電(〇五二)五〇四一二七〇三
- 石黒 五雲堂 〒四五二〇八四三 名古屋市市中村区豊国通四一四六 電(〇五二)四二一七八六二
- 伊藤 大林堂 〒四六五〇八四四 名古屋市名東区香南一五〇七(箕角) 電(〇五二)七七六一八八一
- 永 楽堂 〒四四五〇八五四 西尾市永楽町四一〇 電(〇五六)三五四二〇五三
- (株) 應天堂 〒五〇二二七 岐阜市下鶴飼一四六八 電(〇五八)二二九九一五二〇〇
- (有) 岡本頌文堂 〒五〇〇〇八 四日市市北町三一四 電(〇五九)三三二一六〇一〇
- 魁 盛堂 (株) 〒四五〇〇六三 名古屋市西区押切二二二一三 電(〇五二)五二一三二一一
- 加藤 長寿堂 〒四五一〇〇二 名古屋市市中村区太閤一六一二三 電(〇五二)四五一四七五一
- (有) 伽 藍 〒四六〇〇二 名古屋市中区大須三一八一〇 電(〇五二)二四二一七七一
- (有) 菊屋商店 〒四六〇〇七 名古屋市中区新栄二一四六 電(〇五二)二四一一一四五
- (有) 吸月堂 〒四六二〇四 名古屋市中区清水二二二二 電(〇五二)九三一一六九四八
- 金陽堂表具店 〒四七一〇六 豊田市久保町三一二七一 電(〇五六)五三二一〇八六三
- 小松 表具店 〒四六二〇三 小牧市東二一五四四 電(〇五六)八七五二〇二八
- 書遊川口春霞堂 〒四七二〇二 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四四四一八〇二四
- 書遊平野筆墨堂 〒四六二〇三 名古屋市守山区大森一二七〇一 電(〇五二)七九八一六六五一
- (有) 新泉堂 〒四六二〇六 名古屋市中区若鶴町三四四一 電(〇五二)九〇一一〇五一四
- (株) 青雲堂 〒四六二〇八 安城市今本町三一五一五 電(〇五六)九八一二二三三
- (株) 青柳堂 〒四六二〇八 名古屋市中区栄四一八(中区役所ビルF) 電(〇五二)二五九一〇三二三
- 創源工房 〒四六二〇四 名古屋市中区若田三一〇〇六 電(〇五二)六二九一五〇三五
- (有) 莊文堂 〒四六二〇七 知多市新知宝泉坊三〇一 電(〇五六)二五五二〇五一七
- (株) 大玄堂 〒五〇〇八六九 岐阜市須賀一八二二五 電(〇五八)二七一二六六二
- 名古屋キヨ和 〒四六二〇八 名古屋市中区栄四二一〇(小浅ビルF) 電(〇五二)二六三一九四〇一
- (株) 名古屋ホウコドウ 〒四六二〇六 春日井市八事町一一九〇一三二三 電(〇五六)八八九一七七八八
- 西川堂森表具店 〒四九一〇八三 一宮市下田二一四二五 電(〇五八)六七二一三六二九
- 松屋紙店 〒四七二〇六 半田市清水北町六三 電(〇五六)九二一一二五七二

第六十八回 中日書道展 日程表

二月二十二日	木	書類発送	中部日本書道会本部	午前九時半～午後四時
四月十三日	金	書類(取扱店へ)		
四月十八日	水	書類搬入(業者) 本部へ	中部日本書道会本部	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
<b>愛知県産業労働センター 八階</b>				
五月十八日	金	依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入		午前九時～午後五時
五月十九日	土	二科・鑑査		午前九時～午後五時
五月二十日	日	一科・鑑査	一部・二部・三部・四部・五部	午前九時～午後五時
五月二十一日	月	特別賞選考(依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出		午前九時～午後三時 午後三時～午後五時
<b>電気文化会館 東・西ギャラリー 五階</b>				
六月四日	月	二科審査会員作品搬入・陳列(一部)		搬入 午後一時～午後五時 陳列
六月五日	火	二科審査会員作品展示 第一日		午前十時～午後六時
六月六日	水	〃		午前十時～午後六時
六月七日	木	〃		午前十時～午後六時
六月八日	金	〃		午前十時～午後六時
六月九日	土	〃		午前十時～午後六時
六月十日	日	〃		搬出 午後三時～午後五時
<b>電気文化会館 東ギャラリー・イベントホール 五階</b>				
六月十八日	月	東ギャラリー・イベントホール 審査顧問・特別出品・一科審査会員(一部～五部) ※西ギャラリー 愛知県・江蘇省友好書道展		搬入 午前九時半～午後五時 (主任以上) 陳列 午後一時～午後五時
六月十九日	火	審査顧問・特別出品・一科審査会員作品 第一日		午前十時～午後六時
六月二十日	水	〃		午前十時～午後六時
六月二十一日	木	〃		午前十時～午後六時
六月二十二日	金	〃		午前十時～午後六時
六月二十三日	土	〃		午前十時～午後六時
六月二十四日	日	〃		搬出 午後三時～午後五時

<b>名古屋市民ギャラリー栄 八階</b>				
六月十八日	月	二科審査会員作品搬入・陳列(一部～五部)		搬入 午後一時～午後五時 陳列
六月十九日	火	二科審査会員作品展示 第一日		午前九時半～午後六時
六月二十日	水	〃		午前九時半～午後六時
六月二十一日	木	〃		午前九時半～午後六時
六月二十二日	金	〃		午前九時半～午後六時
六月二十三日	土	〃		午前九時半～午後六時
六月二十四日	日	〃		搬出 午後四時半～午後六時
<b>名古屋市博物館 三階</b>				
六月十九日	火	依嘱・無鑑査作品搬入・陳列		搬入 午後一時～午後五時 陳列
六月二十日	水	依嘱・無鑑査作品展示 第一日		午前九時半～午後五時
六月二十一日	木	〃		午前九時半～午後五時
六月二十二日	金	〃		午前九時半～午後五時
六月二十三日	土	〃		午前九時半～午後五時
六月二十四日	日	〃		午前九時半～午後五時
六月二十五日	月	休館日		午前九時半～午後五時
六月二十六日	火	依嘱・無鑑査作品搬出・一科搬入 一科陳列		依嘱・無鑑査 作品搬出 午前九時半～正午 一科搬入
六月二十七日	水	一科展示会 第一日		午前九時半～午後五時
六月二十八日	木	〃 第二日		午前九時半～午後五時
六月二十九日	金	一科搬出・二科搬入 二科陳列		一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入
六月三十日	土	二科展示会 第一日		二科 午後二時～午後五時 陳列
七月一日	日	〃 第二日		搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャスル(予定)









吉田 一峰 吉原 純芳  
 吉田 香雪 吉村 和子  
 吉田 江楓 吉村 美雪  
 吉田 清城 吉村 峰燕  
 吉田 桃花 米田 匡陽  
 吉田 美影 若林 春麗

〔東三河支部〕

年末助け合い寄託

中部日本書道会支部

中部日本書道会東三河支部は二十日、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に十万円を寄託した。毎年、年末の取り組みで、支部会員に寄付を募って集めた。林田虎峰支部長、古川侃司次長、大河戸柳光次長が、豊橋市の中日新聞



豊橋総局で八木光世総局長に手渡した真。

中日新聞 2017.12.21(木)

若山 峰瀧	青山 和生	新井 桃園	石川 華泉	伊藤 谿石	井野 華水	上野 明美	大島健太郎	岡本 芝苑
鷺津 岱嶺	青山 佳白	荒木 桃花	石川 敬子	伊藤 桂川	井野 昌尚	上松 莊夢	太田 翠香	片岡 祥泉
鷺野 紫篁	青山 千峯	安藤 汀鶴	石川 彩香	伊藤 紅彩	井上 鈴子	上山 翠芳	太田 累淪	小川 華葉
和田 玉繡	秋田 清芳	安藤 範香	石川 茂義	伊藤 鴻仁	井上三保子	小川 秀苑	小川 英子	小川 華葉
渡津 房江	浅井 祥舟	安藤 幸恵	石川 真曄	伊藤 彩秀	井上 ゆい	小川 澄光	小川 菖苑	香月 恵里
渡辺 鶴山	浅井 清泉	飯田 寿泉	石川 鳴洲	伊藤 茂	伊吹 紅鳳	小川 真由美	小川 幸子	桂川 珠翠
渡辺 慶心	浅井登志子	飯田 泰郷	石川 裕彩	伊藤 紫鳳	今井 修武	小川 幸子	小川 幸子	加藤 敦美
渡辺 月潭	浅井 花枝	飯田 美香	石川 龍泉	伊藤 紫鳳	今井 夏虹	小川 幸子	小川 幸子	加藤 敦美
渡辺 北嶺	浅川 都鸞	井内 溪舟	石川 玲香	伊藤 韶光	今井 金子	牛場 智美	大野 琴舟	加藤 喜峰
渡辺悠記子	浅野 蛭雪	井尾 琴流	石川 桜舟	伊藤 清雅	今井 薫峰	白井 和舟	大野 瞬玲	加藤 喜峰
愛澤 珠翠	浅野 揺草	池田 秀翠	石黒 煌花	伊藤 青慶	今井 春陽	内川 昌子	大野 紀子	加藤 湖舟
青木 榮俊	味岡 華奈	池田 翠咲	石黒 直子	伊藤 井翠	今井 翠柳	内田 阜月	大野 満子	加藤 湖舟
青木 定仔	足立 耕堂	池野 登世	石田 茜華	伊藤 たつゑ	今井 徳弥	内田 勢潭	大野 彩	加藤 湖舟
青木 芝翠	阿部 喜秋	伊澤美紀子	石田 舜華	伊藤 桃苑	今井 徳弥	内田 紫華	大野 蘭香	加藤 湖舟
青木 美洲	阿部 光泉	石泉 松風	石塚 弘子	伊藤 美泉	今西 道子	内山 雅舟	大場 敏充	加藤 湖舟
青木 涼虹	阿部 牧香	石川 加翠	石橋 遊貴	伊東富士子	今西 香溪	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			石橋 悠川	伊藤美代子	今村 古雅	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			石原 宗久	伊藤 弥生	今村 禎邨	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			石原千砂子	伊藤 由美	伊与田京子	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			石本 麗水	伊藤 蘭香	今村 古雅	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			泉 好子	伊藤 蘭香	今村 古雅	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			磯貝 碧雲	伊藤 蘭香	今村 古雅	内山 紫華	大場 敏充	加藤 湖舟
			五十川藤華	井戸本瑞心	岩瀬八恵子	江崎 秋泉	大矢 翠華	加藤 湖舟
			磯部ユリ子	岩瀬 華扇	岩瀬 祥苑	江崎 秋泉	大矢 翠華	加藤 湖舟
			板倉 恵子	岩瀬 華扇	岩瀬 祥苑	江崎 秋泉	大矢 翠華	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 永慎	岩田 香翠	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 浩泉	岩田 浩泉	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩垂 季粧	岩垂 季粧	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市橋 文親	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			伊藤 梓紗	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			伊藤 文野	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			伊藤 玉燕	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			伊藤 恵子	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			犬塚 八重	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			稻吉小夜子	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			稻吉 邦子	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			稻葉 翠泉	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市橋 舞夏	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市橋 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香雪	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 純慧	岩田 恵子	岩田 恵子	大岡 祥園	岡崎 志虹	加藤 湖舟
			市川 香翠					





